

スポーツが幼児の遊びに与える影響

—キッズプログラムに着目して—

尾藤 武尊 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 佐藤 馨

キーワード：幼児 運動 キッズプログラム

1. 緒言

近年、こどもの運動離れや運動不足は大きな問題となっている。

滋賀県のびわこ成蹊スポーツ大学ではサッカー部の部員がキッズライセンスを獲得し、JFA キッズプログラムとともに、びわスポキッズプログラムという活動を行っている。どちらの活動も主に各地域の幼稚園や保育園を巡回し、サッカーを中心としたスポーツの指導を行うものである。

本研究では、キッズプログラムを行っている園児の保護者とキッズプログラムを行っていない園児の保護者に「降園後のこどもの遊びに関するアンケート調査」を実施し比較することで、キッズプログラムが幼児期のこどもの遊びにどのような影響を与えているのか明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

先行研究で使用された調査用紙をもとに質問用紙を作成し、留置き法による質問紙調査を実施した。キッズプログラムに参加している滋賀県大津市のA幼稚園に通う園児の保護者 18 名、滋賀県大津市のB幼稚園に通う園児の保護者 23 名、さらにキッズプログラムに参加していない滋賀県大津市のC幼稚園に通う園児の保護者 35 名の合計 76 名を対象とした。調査期間は 2011 年 10 月の 1 カ月間。調査項目は性別、学年、遊びの頻度、スポーツへの興味、運動意欲、遊びの種類等である。

3. 結果および考察

キッズプログラムが子供の遊びに与える影響について検証した結果、有意な結果を得ることができなかった。よって、スポーツによって子供の遊び方が変わるという仮説は立証できなかった。

しかしながら、「ボール遊び」の項目と「スポー

ツへの興味」の項目については違いが見られ、キッズプログラムがこどもの遊びに影響を与える可能性を感じた。ボール遊びを主に行うか行わないかを「あてはまる」「あてはまらない」で回答を求めた。その結果、全国幼児運動調査報告書で、幼児のボール遊びを主にやっている比率が 18.3% だったのに対しキッズプログラムを行っている園児は 56.3% と約 3 倍の差が見られた。

次に、スポーツへの興味が「非常にある」と答えた保護者がキッズプログラムを行っている園は 19.5% であったのに対し、キッズプログラムを行っていない園は 8.6% と 2 倍以上の差が見られた。

これらのことから、キッズプログラムの中で普段とは違った遊びを行ったり、身体への刺激を感じることでスポーツに関心を持ったり、キッズプログラムの中で行っているボール遊びを、家でも同様としておこなっていることが考えられる。

4. まとめ

キッズプログラムの中でできなかったことができるようになったり、コーチに誉められたりした成功体験が自信となり、降園後の遊び方に変化が出てくるのではないかと考えられる。

今後の課題としては、アンケート調査を行った人数が少なかったことが有意差の認められない原因の 1 つとして挙げることができる。

また、キッズプログラムは、運動が嫌いなこどもや運動意欲のないこどもも参加するので、このような嫌々参加するこどもをいかに振り向かせるかという点も明らかにする必要がある。

参考文献

森司朗ら(2011)幼児の運動能力における時代推移と実践的介入